



テーマ1 授業4

「公平」について考えてみよう！

今日のルール



Think...一人で考える

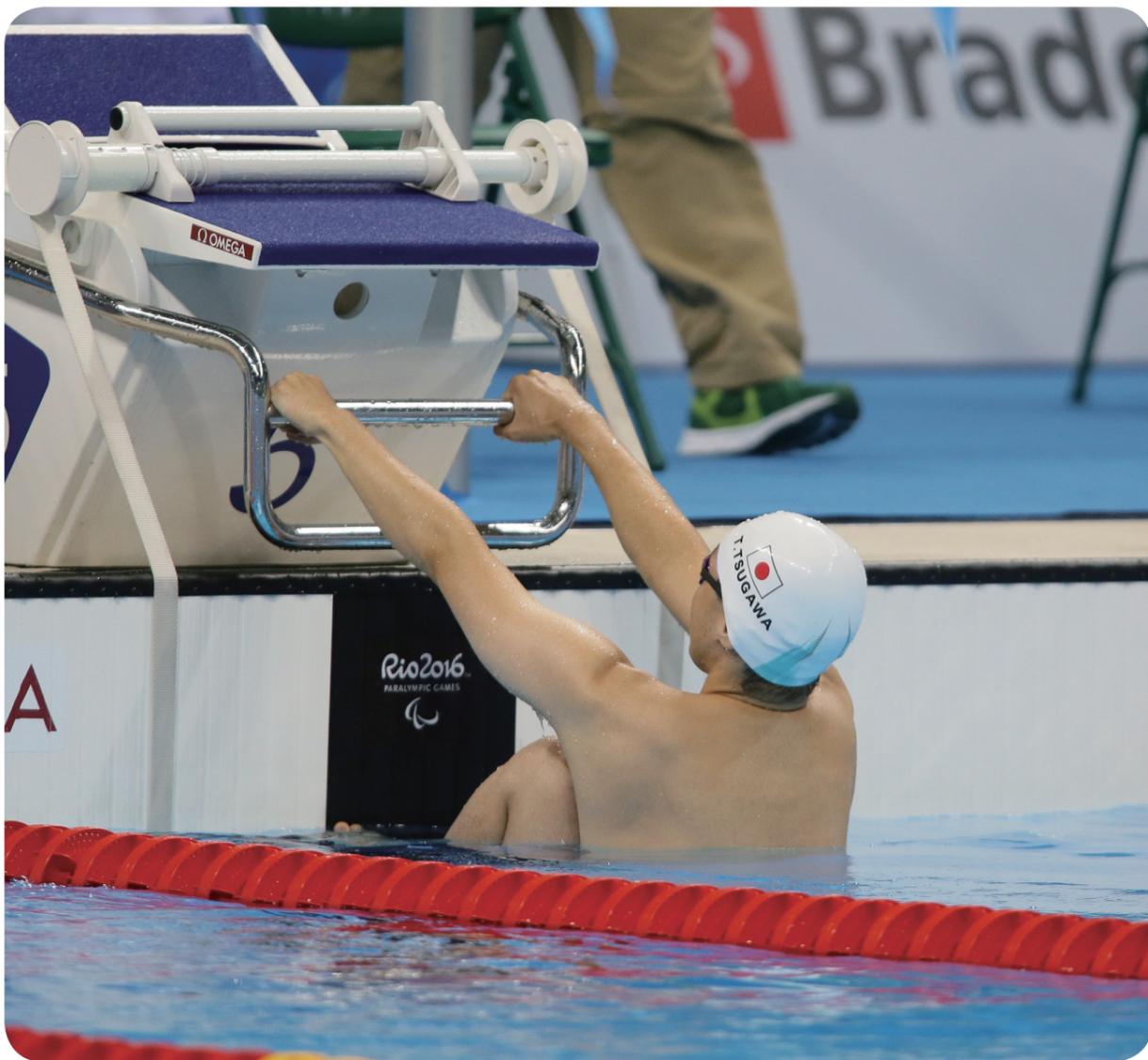


Pair...^{となり}隣の人と^{こうかん}意見交換する



Share...発表を通してクラスや
グループで考えを共有する

背泳ぎのスタート



パラリンピッククイズ



3人が背泳ぎの同じレースに出場する。
どうやってスタートするかな？



かたうで
片腕が不自由



両腕が不自由



自分の体をうまく
コントロールできない

答え

補助具を使用したり、コーチが体を支えたりする。

背泳ぎスタート





パラリンピックでの背泳ぎスタートの工夫

かたうで
片腕でスターティング
グリップを握る

補助具を使用

体を支えてもらう



「公平」なルールとは 何だろうか？



T

S

はらいちひろ な

原市紘奈さんの事例から考えよう。



はらいちひろ な
原市紘奈さん

原市さんが、小学6年生のときに書いた作文を読んで、ドッジボールが楽しくできた理由を考えよう。

様々な人が、
共にスポーツを楽しむための、
「公平」なルールとは？



公平なルールづくり ①

本質を損なうことをしない。

背泳ぎ

- ・ グリップを両手で握る。^{にぎ}

ドッジ
ボール

- ・ 相手にボールを当てる競技である。



公平なルールづくり ②

不利な条件に^{はいりよ}配慮する。

- ・グリップを^{にぎ}握ることができないときは補助道具を使う。

(ただし、選手を^お押し出すなど有利になることをしてはいけない。)



公平なルールづくり ③

ルールづくりに当事者が
参画する。

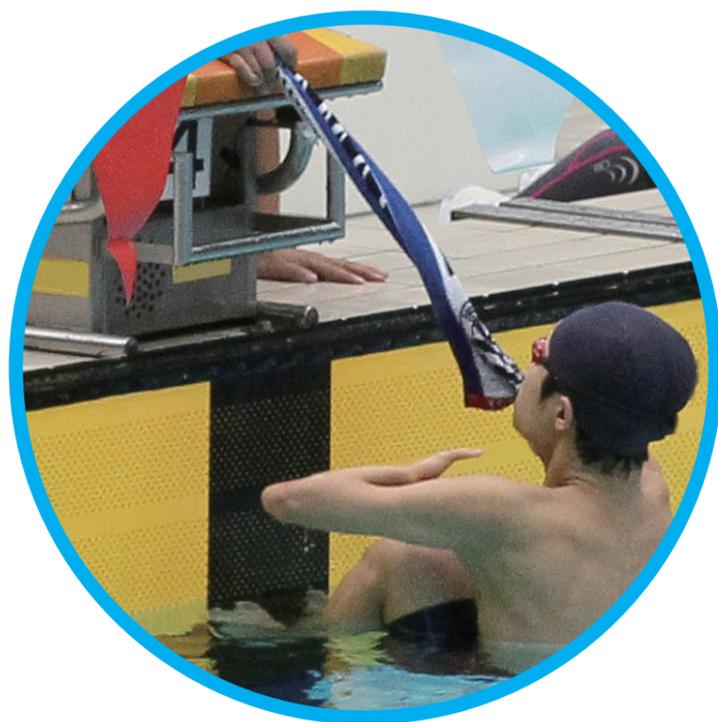
- ・ ^{はらいち}原市さんがクラスのみみんなと
ルールづくりをした。





「公平」を考える上で大切なこと

固定観念にとらわれず、^{じょうきょう}状況に応じて相手の立場を考え、個々に判断していくことが大切。



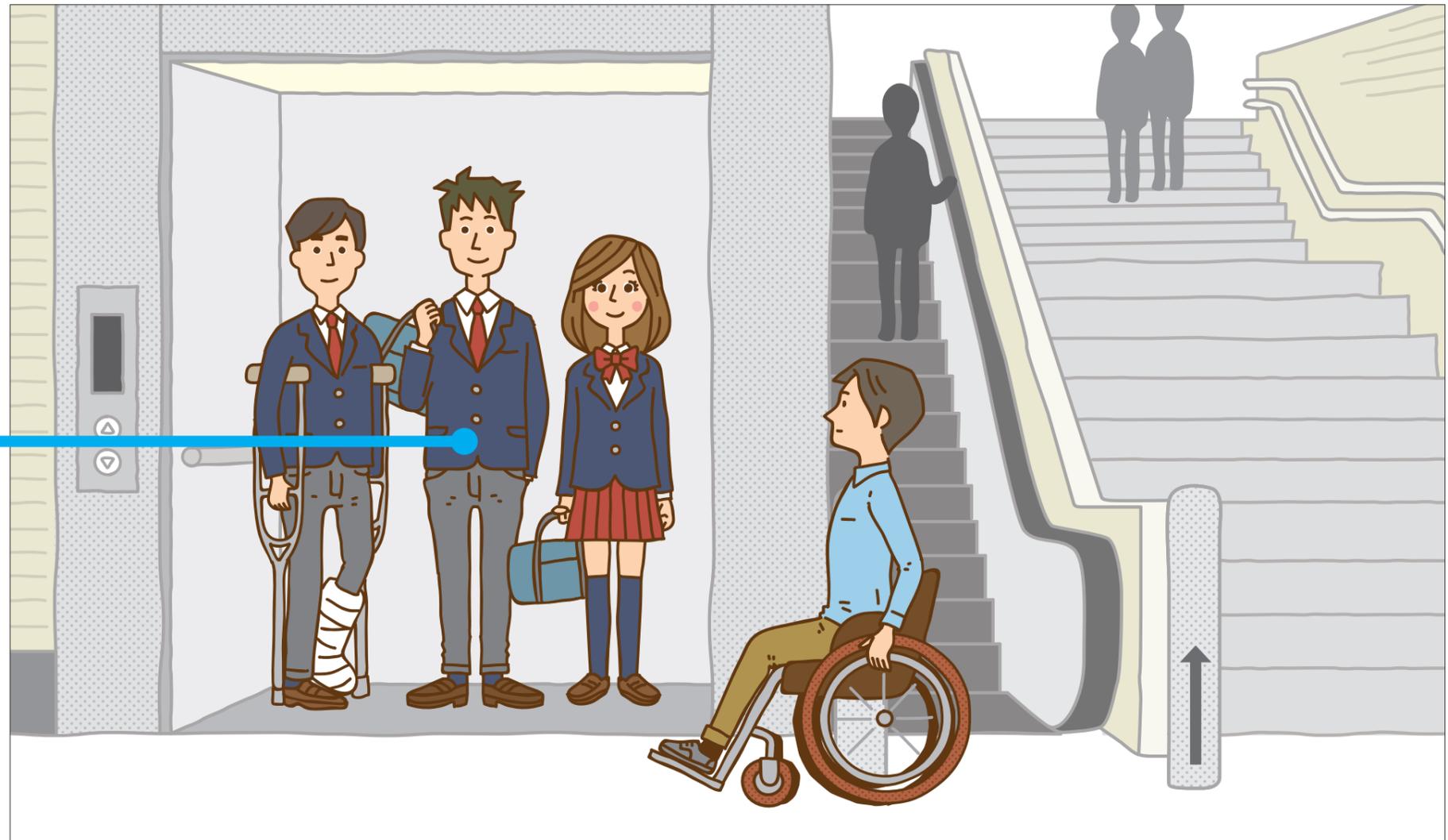
まちでの「公平」を
考えてみよう。

実際の社会の中での「公平」について
考えよう。

 **T** あなたならどうする？ ①

ケース① 3人は同じクラスの友達

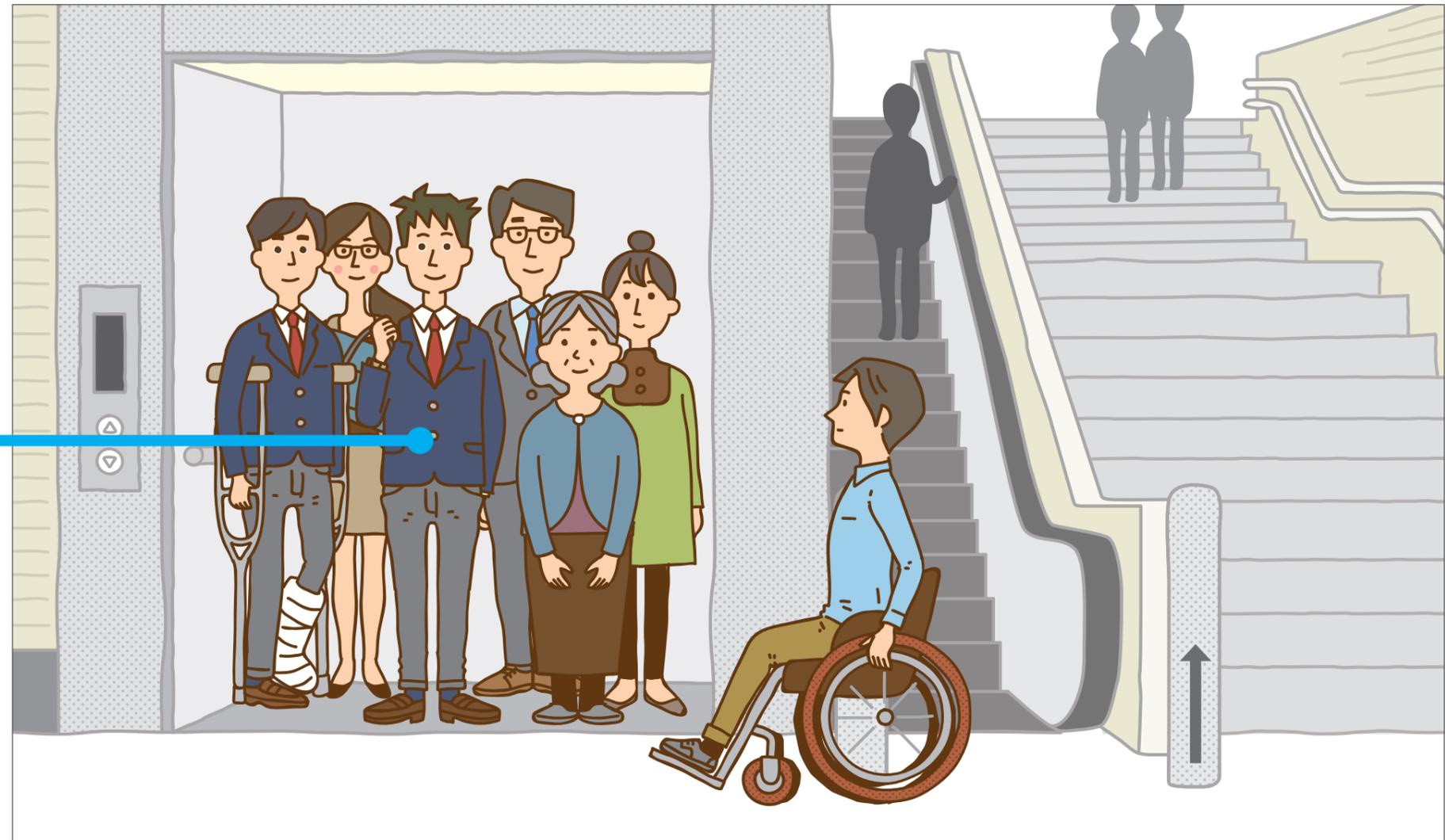
あなた



 **T** あなたならどうする？ ②

ケース② あなたと松葉づえの人は同じクラスの友達

あなた





発表しよう！



社会での「公平」を考えるポイント

- ・ ^{じょうきょう}状況に応じて自分で考える。
- ・ 他に手段がないか考える。





「公平」な社会を実現させるために

同じ条件の人は同じように扱われるが、
条件が^{ちが}違えば、^{あつか}違うように扱われる。

「一人ひとりの違いを理解して工夫」
することが大切。



障害者権利条約 ①

2014年、日本は障害者権利条約を締結^{ていけつ}。

障害者の人権や基本的自由を守るための約束。

「障害の社会モデル」 という考え方を反映。

「障害」は、障害者ではなく社会が作り出しているという考え方



障害者権利条約 ②

- 第2条 「合理的配慮」をしないことは差別である。
↳ 障害のある人たちが困ることをなくすために、
周りの人や企業きぎょうなどがすべき無理のないはいりよ配慮。
- 第5条 障害に基づくあらゆる差別を、国が禁止。
- 第9条 建物や公共の乗り物、情報や通信などが障害者にとって使いやすくなるよう定める。
→生活していく上でのバリアをなくしていく。



一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、
だれもが自分のベストをつくすチャンスが
あると気づかせる力。

パラリンピックの価値 「公平」



パラリンピックの価値

■ 勇気

つらいことやできないかもしれないと思うことから、
に逃げ出さないで立ち向かう力。

■ 強い意志

あきら諦めな^{あきら}いで、目標に向かって努力し続けられる力。

■ 公平

一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、
だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。

■ インスピレーション

強く気持ちを揺さぶられ、自分も何かに^{ちようせん}挑戦してみたいと感じさせる力。